

青薔薇姫

成人向



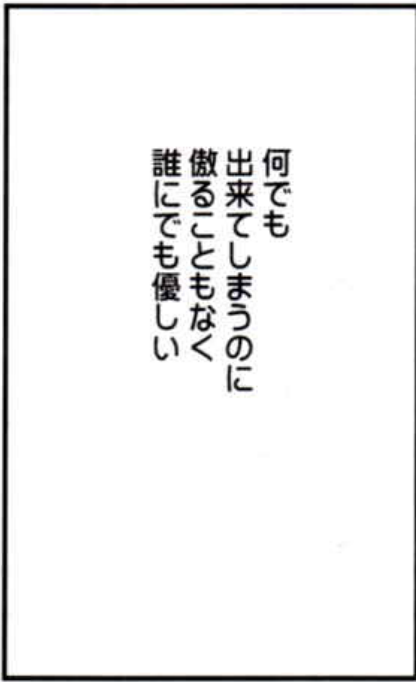
青薔薇姫

成人向





皆の王子様



何でも
出来てしまうのに
傲ることもなく
誰にでも優しい

私にとって
あなたは太陽

蕾

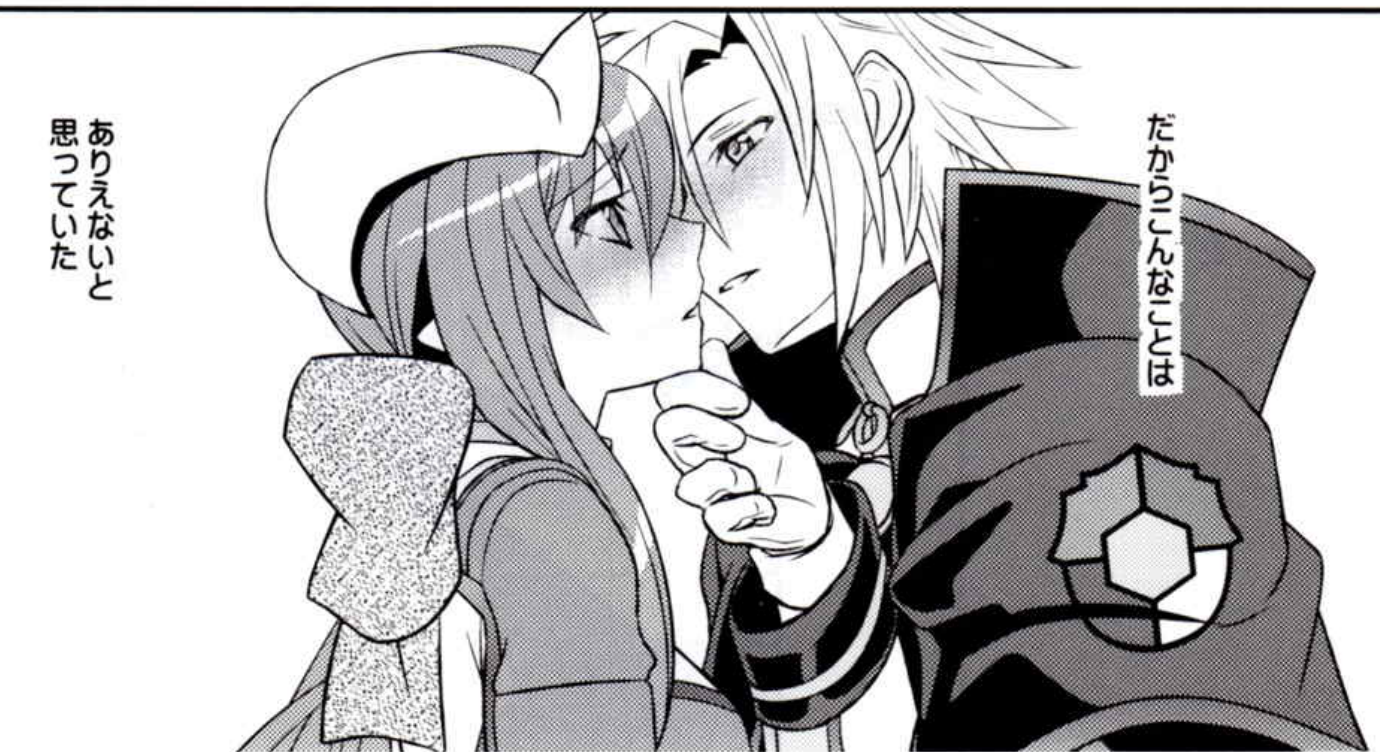


誰よりも
色々なものに
恵まれた人



側で見ていると

自分との差を
大きく感じてしまう



だからこんなことは

ありえないと
思っていた



きつともっと
相応しい人が…

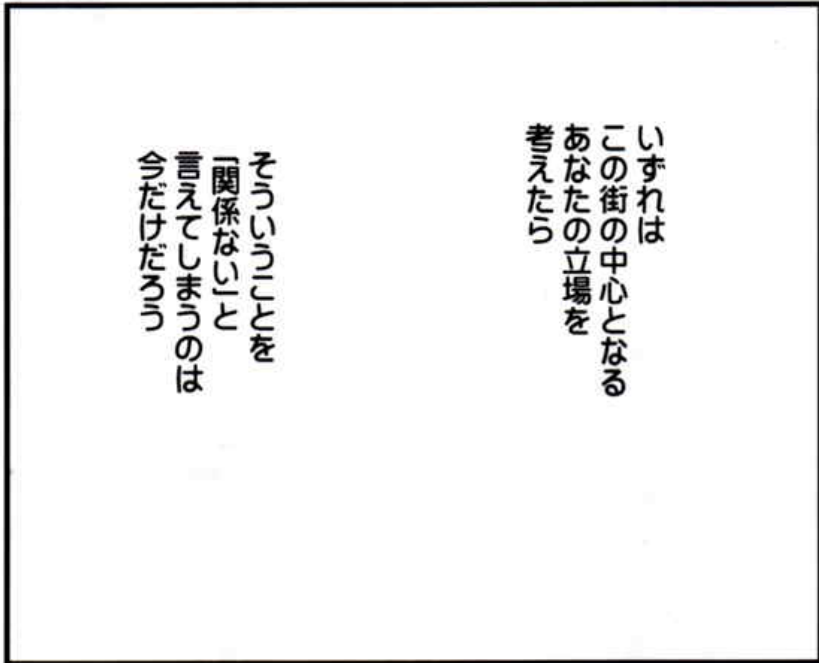


何が？

…私で
いいの？

だって

あなたとは
種族も違うし

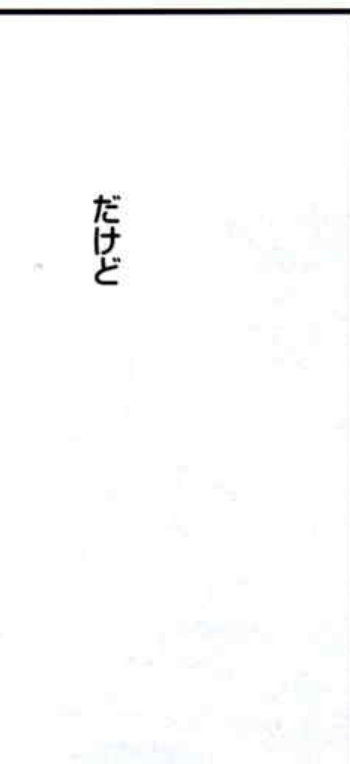


そういうことを
「関係ない」と
言ってしまうのは
今だけだろう

いずれは
この街の中心となる
あなたの立場を
考えたら



そういうのは
関係ないよ



だけど



だからきつと

これは
ほんの短い間の関係を
暗に求められている



っ……っ
私……っ

震えてる？



……大丈夫……



嫌になったら
言ってほしいな
すぐにやめるから



……っ



も...
も...
も...

か
あ
あ

!!



君は本当に
キレイだね



何
言
つ
て
る
の
よ...っ



は
は
か
わ
い
い
な
あ

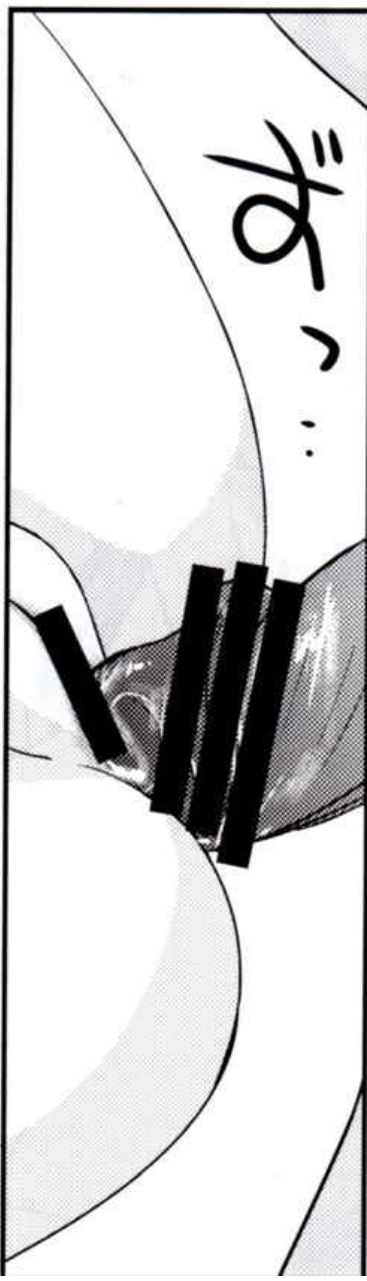


あ
っ
当
た
り
前
で
し
よ
う
っ

：
恥
ず
か
し
い
？









ぐわんぐわん



あっ……



ざん



あっ……!!



!!

ざんざん



あっ…

!!

あ
は
は

ト
ロ
ミ

ト
ロ
ミ

ト
ロ
ミ



子供が出来ることは稀

その種族の違いが
一時の関係に
また都合のいいものだった
事に気付いたのは

もう…

しばらくたって
からのこと

誰かに
見られたら
どうするの？

見つかっても

君とボクなら
皆
祝福してくれると
思うけどなあ

でも

何言ってるのよ

あなたは…

それでもよかった

だって私は

好きだよ

君のこと

あなたのことが

大好きだったから

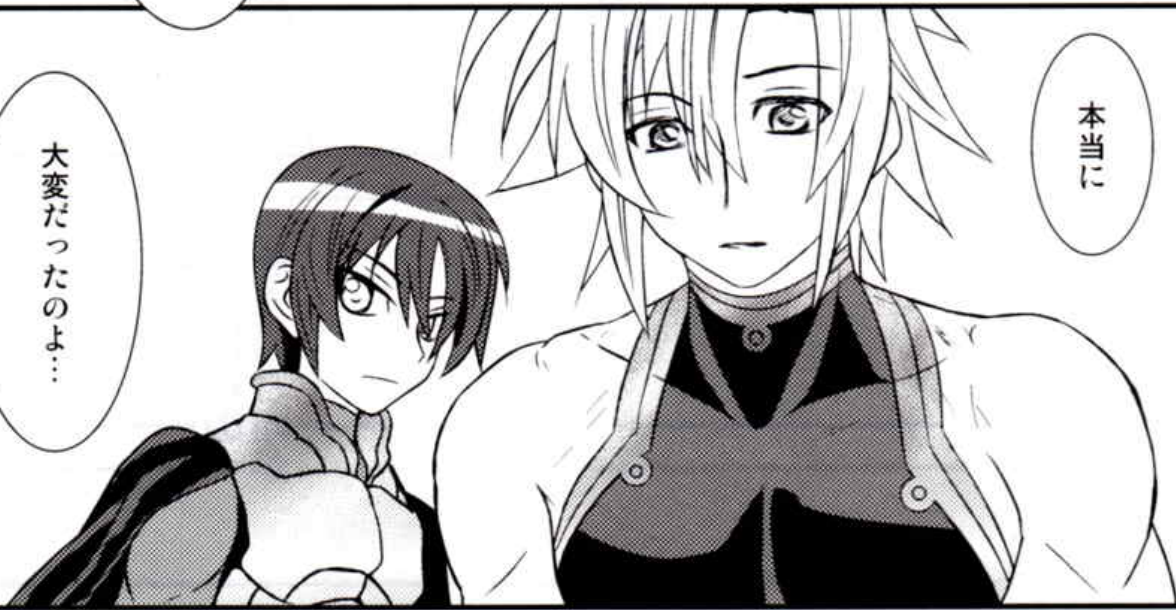
鳳凰学園 外海獣襲撃事件後

二人とも
何も言わずに…
どこ行ってたのよ!

大変だったのよ…

本当に

何も知らないから?



どうして
そんな風に
ボクを…

…
二人とも無事に
帰ってきてくれて
良かった…



おかえりなさい

どうしてそんな…
どこまでも優しい目で
ボクを見る？

大嫌いだっただのに

ボクは君の
そういふ所が

牙樹 志津華

青龍組トップの才媛

魂獣と能力
雰囲気からか

『荊姫』と
呼ばれている



他者に対する
警戒が強いのか
呼び名の通り
刺々しい態度を
取ることもあるが



一度信頼した
相手には甘い

心配性が過ぎる所が
欠点ともいえる

真面目で
真っ直ぐで
純粹で

それこそ
『お姫様』のような

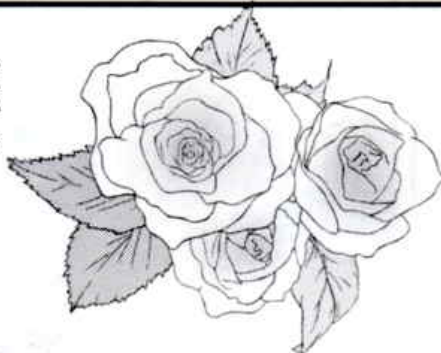


『王子様』を
演じているだけの
ボクと
反対の存在

きっと
大切に
育てられたのだろう

美しい花

だから



嫌いだったんだ

壊して
しまいたくなった



ボクの
持っていないものを
持っている君を

それこそ
真面目で純粹な人だから
慣れていなくて

落とすのは
簡単だった



優しい人だから

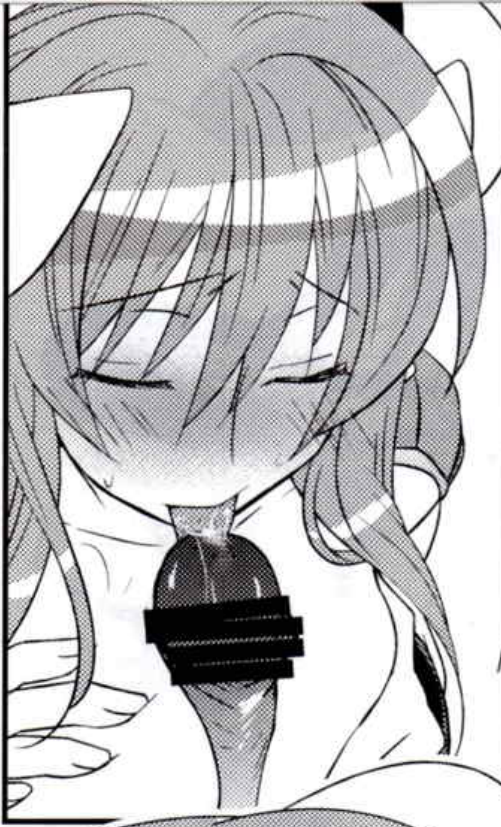
ボクの言うことは
何でも
聞いてくれるのも
好都合で

時々
自らは

学内で
そういう行為に
及ぶほどに

彼女の倫理観は
崩れていった





清らかだった君が
自ら汚れていくのを
見るのが楽しかったんだ



拒むこともあったけど
それはただのふりで

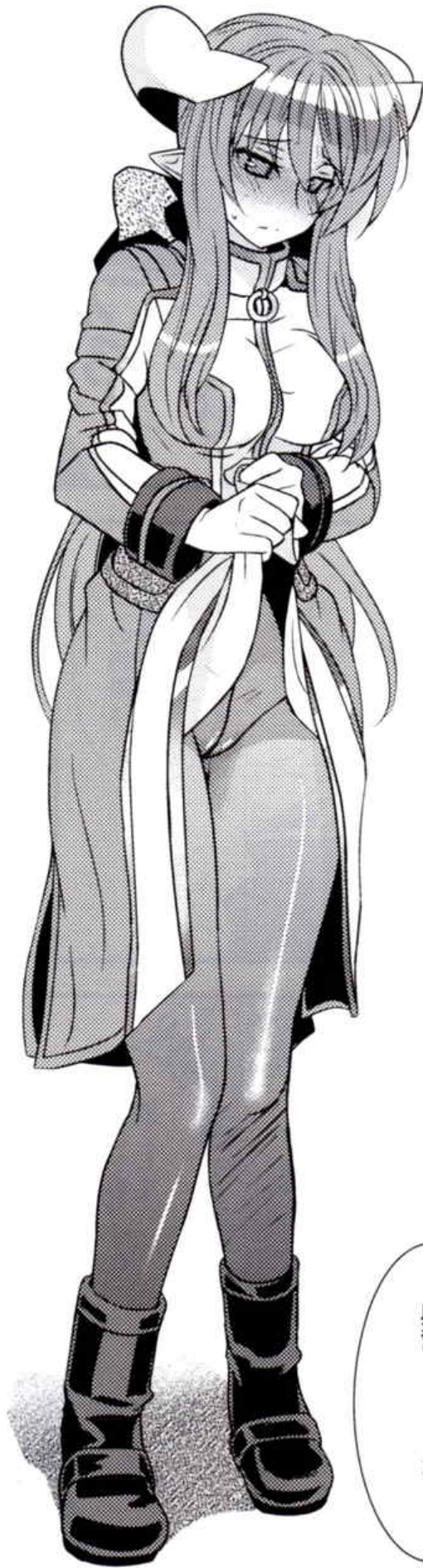


結局はいつも
ボクの言うことを
聞いてくれて

最後には
悦んで…



ボクは君をそういう人にしてしまったんだ



嬉しいよ



本当に
言うこと
聞いてくれたんだ



ぬる



こんなに
濡らして

誰かに
見られるかもって
想像して

興奮しちゃった？



これ

この前
没収した写真

盗撮とか
されてないと
いいねえ

!!

っ…!!

フッ
フッ
フッ



麗しき
青龍組の姫

他にも
沢山あるよ

常に
狙われてるんだ
君は

この制服は
間違いなく
君だね

…!!



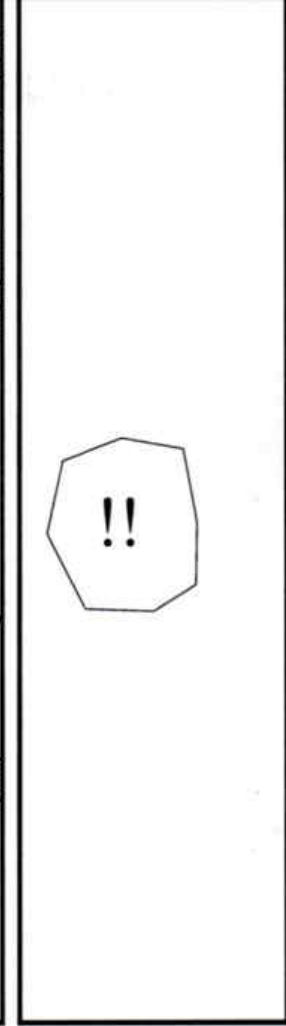
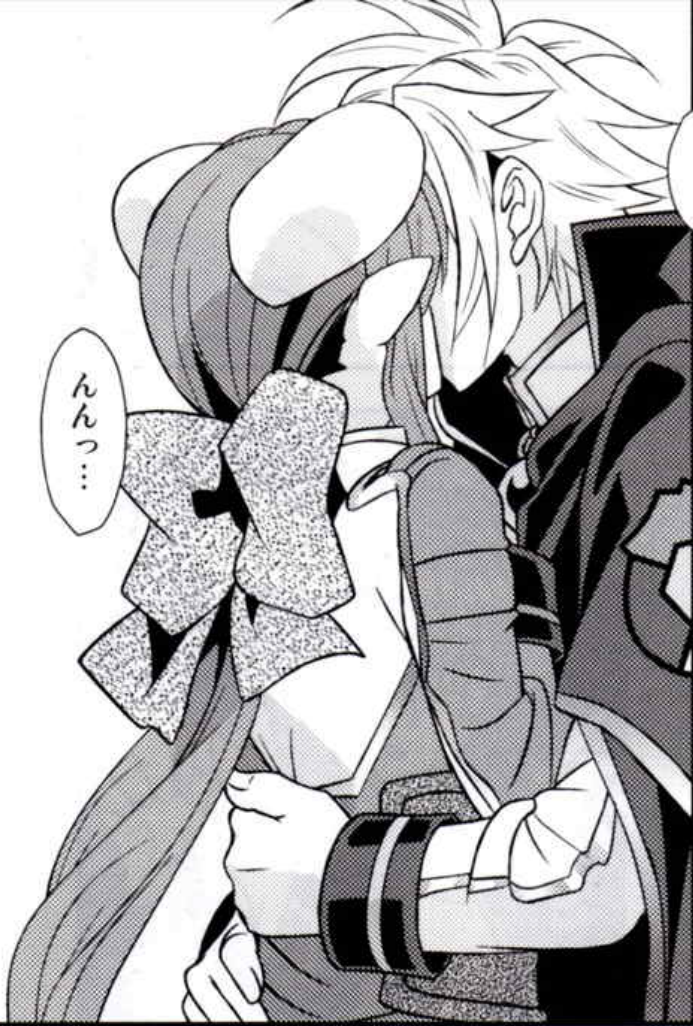
どうなって
しまうんだろうね

皆の憧れの
副会長さんが
いやらしい子だって
バレてしまったら

もしこんな…
下着を着けずに
過ごして

ぐっしょりと
濡らしている所が
撮られて

アザ







やめっ…!!

ちよっと!?!



その状況に

興奮してたんだよね
君は



誰かに
見られてしまう
かもしれないって



なっ…!! どうして!?

構わないよ

ボクは



こんなの
見られたら

あなたも
困るでしょう!!



まあ

この時間に
ここを通る者は
まずいな
わかってや
ってるけど

どうして…

こんなこと…



ご自慢の優秀な息子が
そんな事しかすの
あの人への
復讐になるかなとか

どうせも
この学園ごと…とか

ははっ
どうして
だらうねえ



!!

きゅん
びん



あっ

ギョウッ

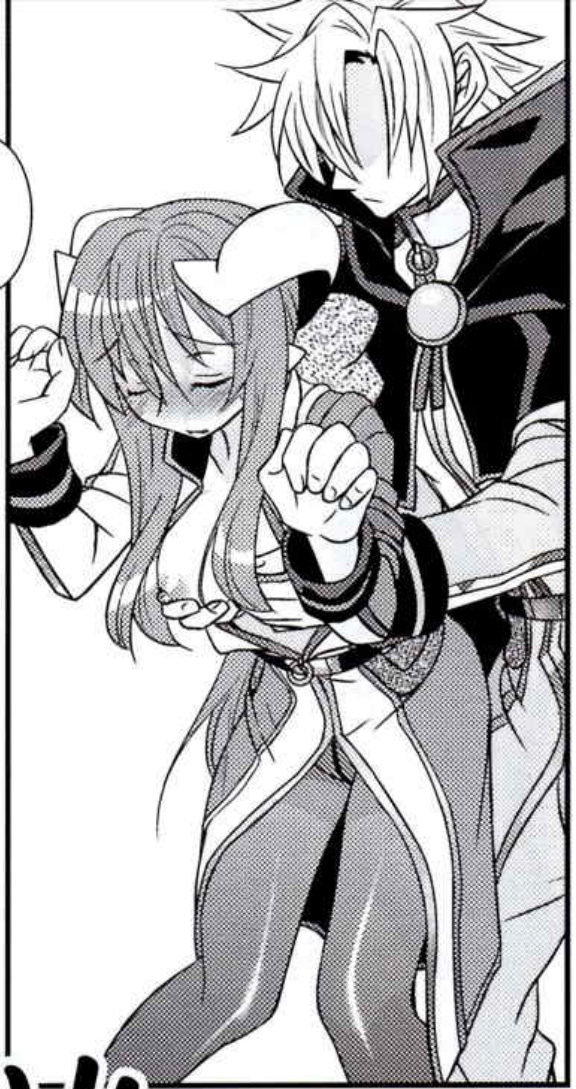
あっ



うっ...!!

ニニ

びん







あっ

んんっ



30



ずんずん

ずんずん

んんんん



うっ…

あっ

ぎんぎん



いゃあああっ!!

あっ

あっ!!





あ...!!

!!

!!

!!

!!

!!

!!

!!

そうやって
君を弄んだあげく
捨てていったんだ
ボクは

だから君は
ボクを
待っていては
いけなかったんだ

ボクは君に

ひどいことばかり
していたと思うよ

帰りを待っていた
必要も
優しくする必要も

まったく
ないんだよ



…
それに

本当のことを
言うからね

君の…

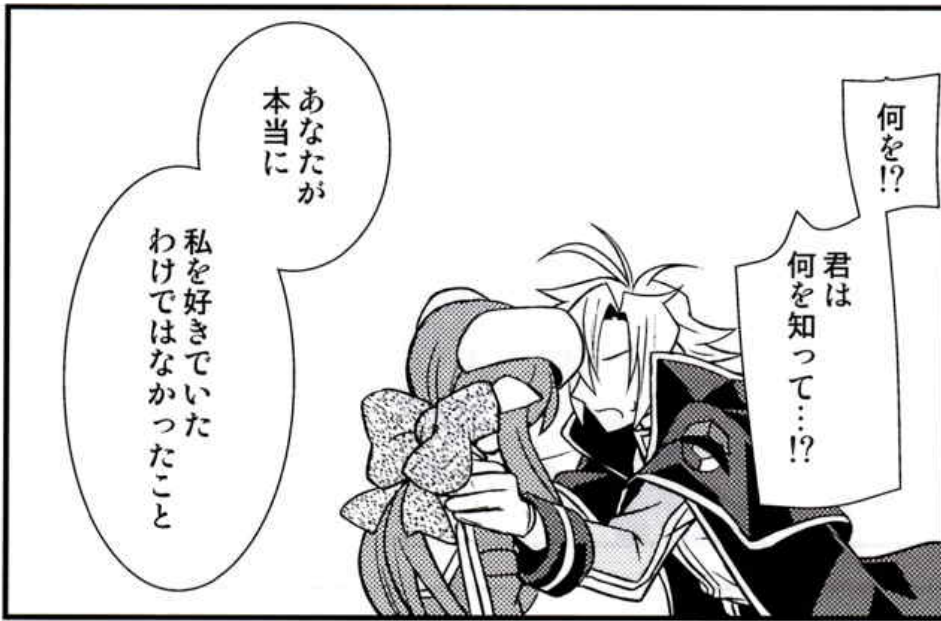
生命すら



君の…

奪っていた
かもしれないと
いうのに…





あなたが
本当に
私を好きでいた
わけではなかったこと

何を!?

君は
何を知って...!?



わかってしまったもの...

!!



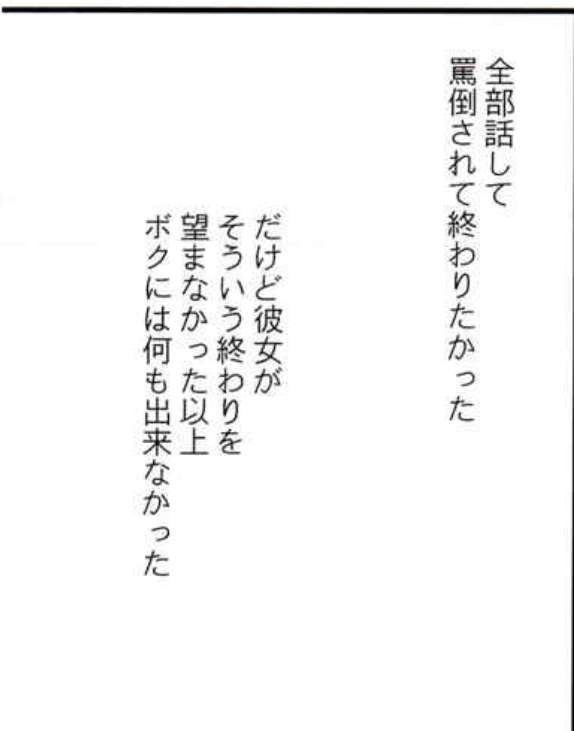
...ごめん...

私はね
あなたのこと



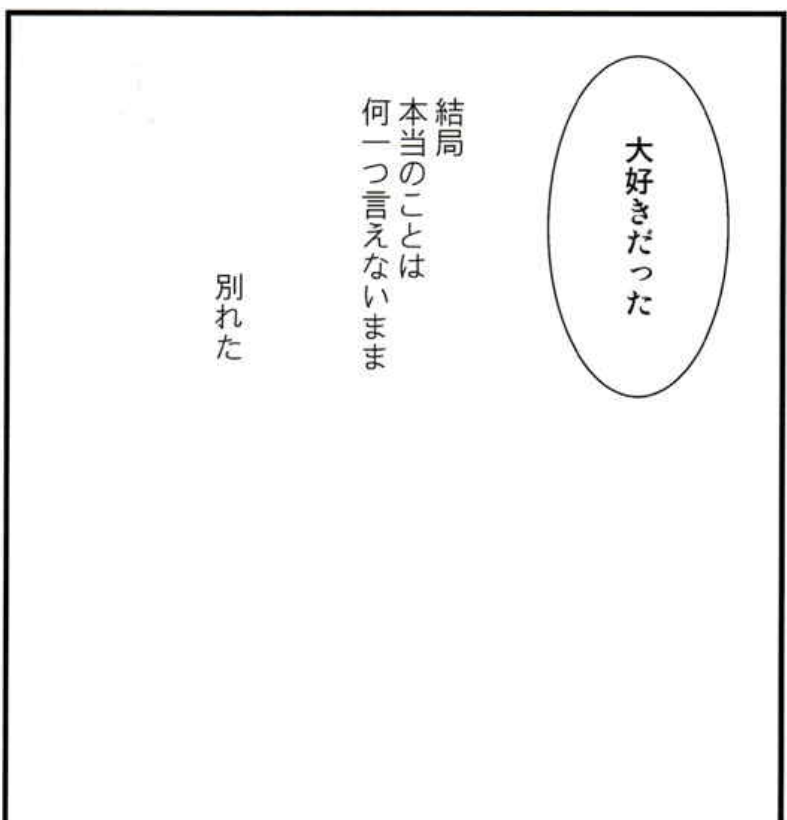
だから...

もうこの



全部話して
罵倒されて終わりがかった

だけど彼女が
そういう終わりを
望まなかった以上
ボクには何も出来なかった



大好きだった

結局
本当のことは
何一つ言えないまま
別れた



彼女も もう
この先ボクのこと
無かったこと
にして
忘れるつもり
なのだろうと
思っていた

だから



二人のことが
心配だったの

それだけよ

こんな事になるなんて
まったく予想して
いなかった





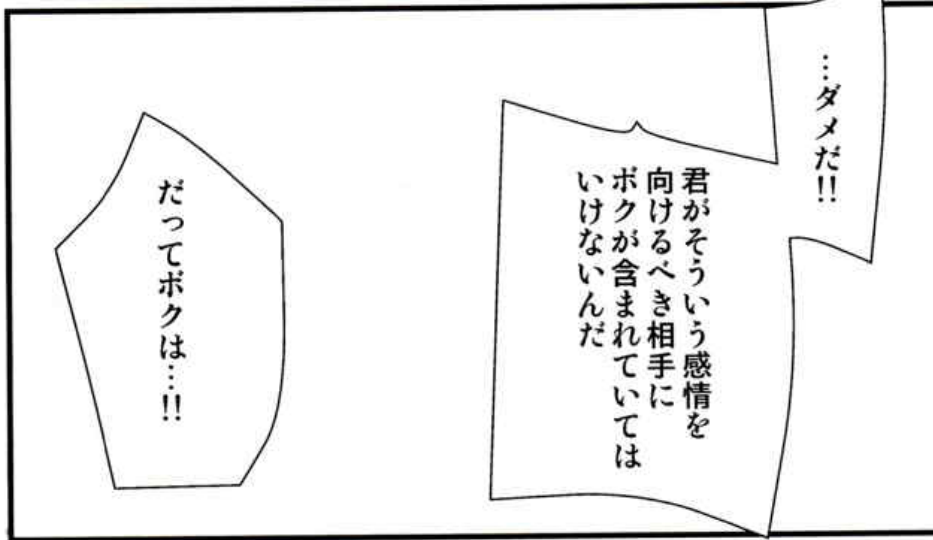
実際に見て
安心していたいから
追って来たの

だからこれは
私一人のわがまま



二人が無茶して
倒れてたらどうしようとか

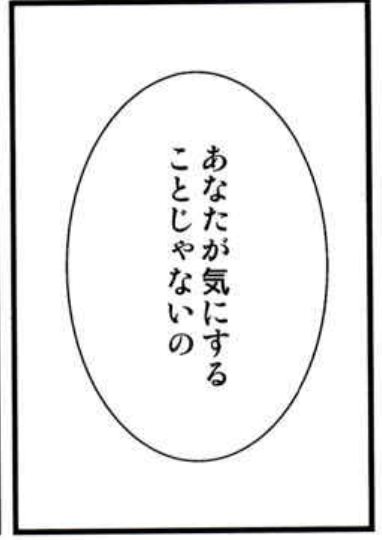
一度想像し始めたら
頭から離れなくて



だってボクは…!!

…ダメだ!!

君がそういう感情を
向けるべき相手に
ボクが含まれていては
いけないんだ



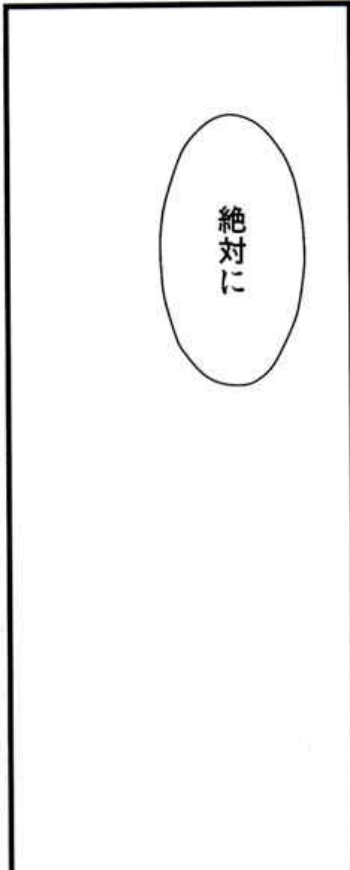
あなたが気にする
ことじゃないの



許されないことを…



おかえりなさい



絶対に



君に…



あ
っ
…



あ…
え…



震えてるわ
大丈夫？



急に



本当のこと
何も…
言えないみたいだ…

ごめん…
ボクはまだ…
君に…

がく
…

何の話か
わからないけど

君に嫌われて
しまうのが

言えないなら
言わなくていいわ

怖くなった

私からも
何も聞かない

ボクは…

ごめん…

ごめん…

どこまで
勝手なんだろう

落ち着いて…

結局ボクは
彼女を街に
帰すことが
できなかった

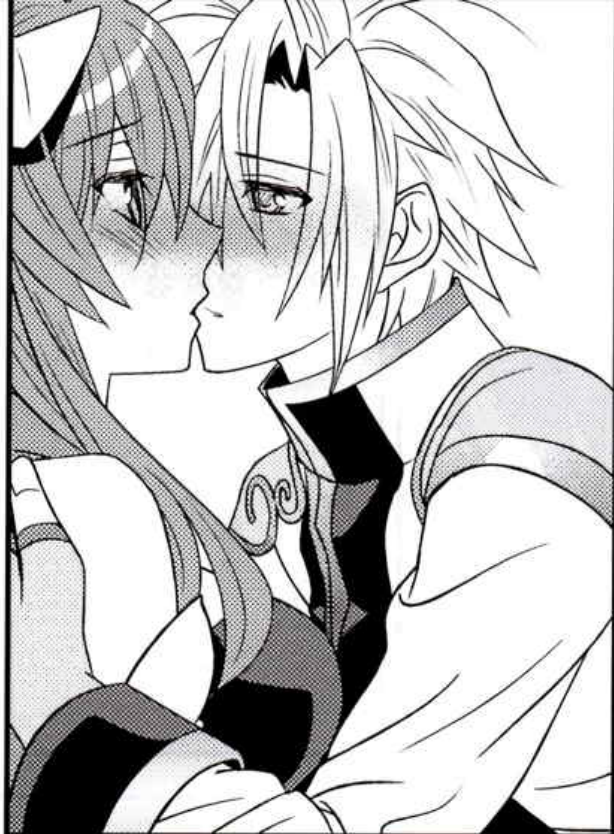
そして君の優しさに
すぎる

最低だ

荊

君の優しい所が好きだとか
ボクに甘い所が好きだとか

今更そんなことを
想うのは
許されるのだろうか



悪い夢を
見るんだ

君を

ボクが
自らの手で殺める

一歩間違えれば
通っていたかもしれない
過去

失う夢

怖いんだ

だからなの？

こうやって甘えてきて…

うん
そうだね



触れることで
君の存在を
確認したいんだと思う

私ね

あなたへの
そういう感情は全部

捨ててしまう
つもりだったのよ

余計な感情は
外海探索の
邪魔になって
しまいそうだし

なのに

そんなこと言われたり
こんな風に
甘えられてしまったら

いじわるな人ね

ぎゃうっ





あつ



忘れてたんだ

忘れる
くらい...?



ちゅぽ

んっ



だって

そんなこと
思いつく
余裕なんて
どこにも...



私がつ...
こんなこと...

当たり前
でしょう!!



久しぶり?

こうらうこと

びん

んっ

…!?!
あの頃のあれは
ボクに合わせてただけ?

はあっ

そうなんだ

もしかして
今も

きゅっ

嫌だったりする?

ふ
ら

…そんなことない…

なら
良かった

あっ

おん



あっ



はっ…



うっ

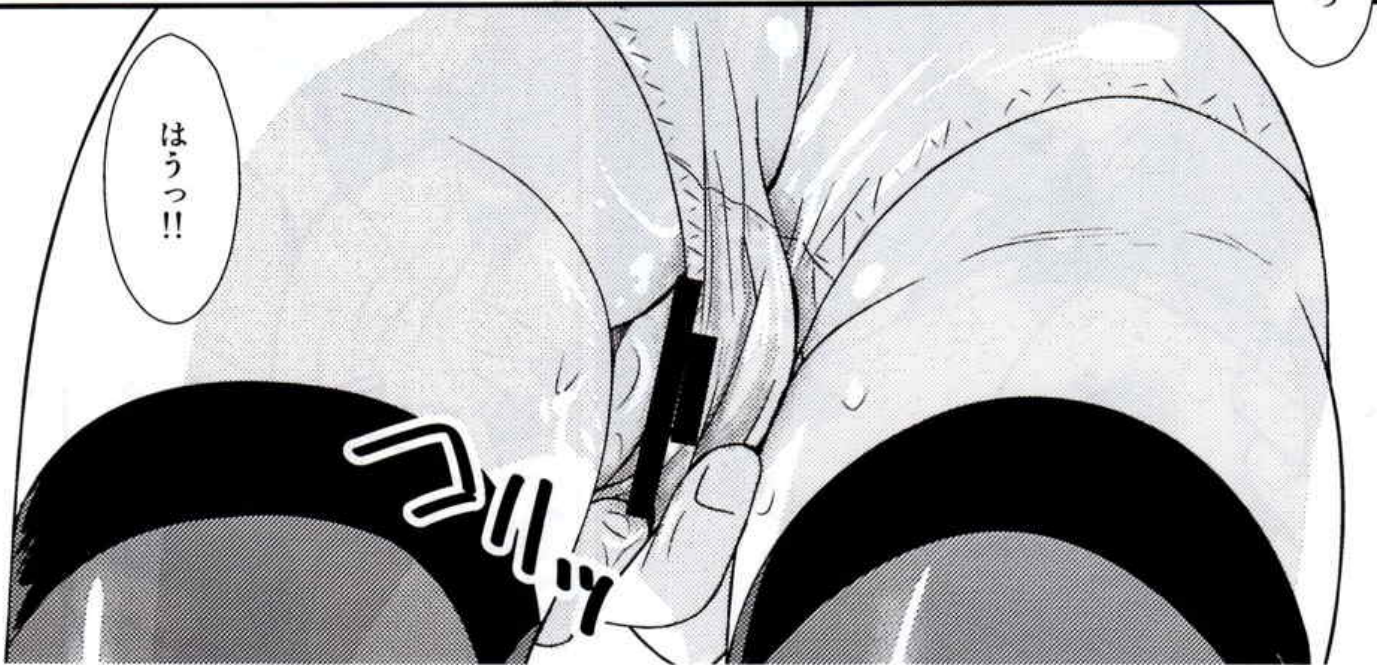
うっ



んっ!!

ぬっ

あっ



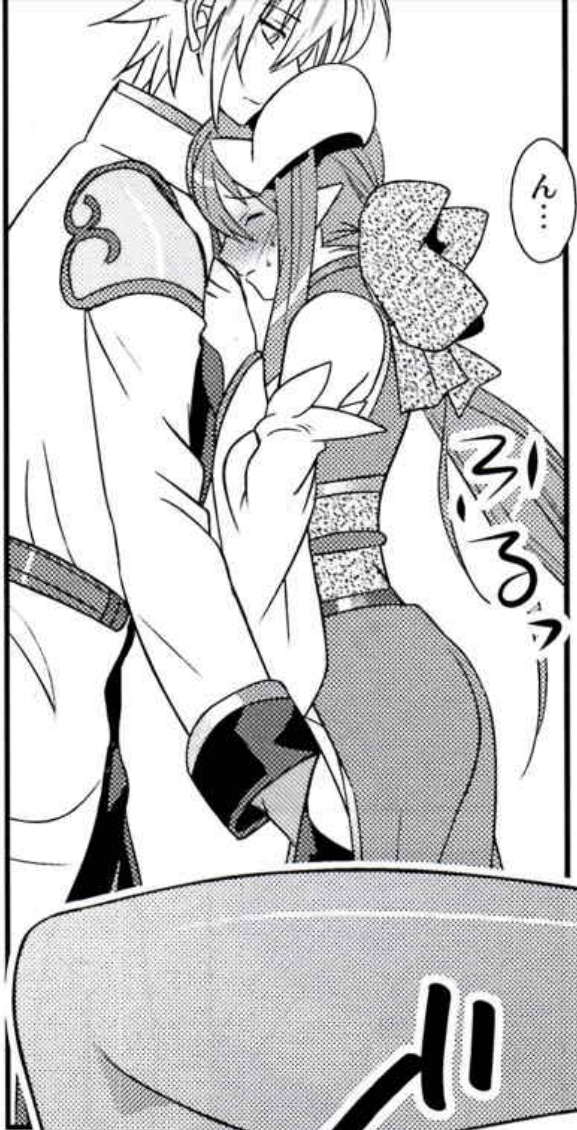
はうっ!!

はうっ!!



クク...

入れてもいい？



ん...

ズン...



グッ

あっ...



グッ









びん

びん

今はどっちでもいいか...



こういうこと好きではあるのか？

ぶちゅ

ぶちゅ



ぶちゅ

ぶちゅ



あっ!!

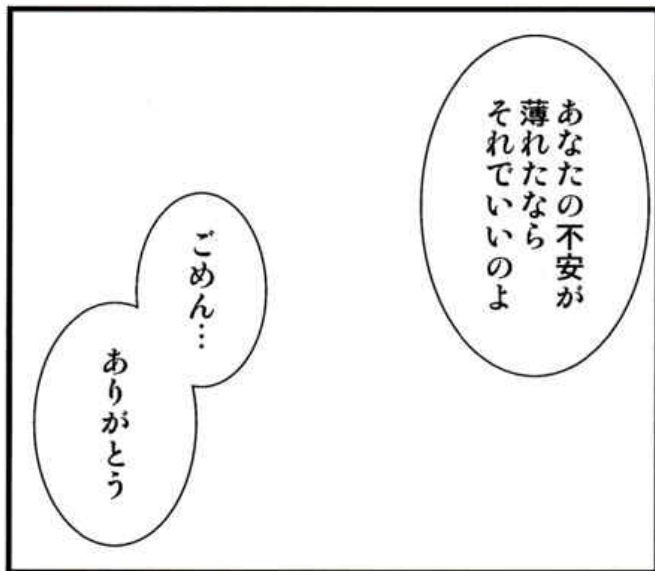
あっ!!

あっ!!

あっ!!

あっ!!

あっ!!



…そこまで言えない
くらいなもの

きっとその
許されないことと
いうのを聞いたら

怒ったり
軽蔑したりするかも
しれないし

やっぱり
許さないでしょうね

だけど

それでも

私から
あなたの側を
離れることはないわ

安心して

君が側にいる限り
この先もずっと
悪夢は見続けるだろう

ありがとう…

これはボクが自ら
招いたことだ

巻き付いて
外れない
この荊と共に
ボクは生きていく

どうもこんにちは。ひかべさくほです。

『神羅万象チョコ ゼクスファクター』より、シヅカの本というかカナトの本というかとりあえずこの二人の本です。

描きたい妄想エピソードを盛ったり削ったりした結果、このような誰向けかわからない本になりました。

カナトがひどい人ですみません。

本編の学園卒業後のエピソードで追いかけてるほどシヅカはカナト(とケンケン)のことを大事に思っているのに、カナトの方は生徒が被害を受けるかもしれないのをわかってて学園襲撃してるあたり、カナトにとってシヅカはどうでもいい他人の一人だったのかなーとか、王子と姫の対比とか、いろいろ考えてるうちにこうなりました。

卒業後になってようやくカナトにとってシヅカが大事な人になったり、そのせいで悩んだり、そういうのを描きたかったんですが、エロとの割り振りで迷った結果、なんだか中途半端ですみません。

この二人(とケンケン)が大好きで、まだ描きたい話は色々あるので、同人誌かWEB上でかはわかりませんが、そのうち発表したいと思います。

本文の仕上げが一部間に合ってなくてすみません。
今出さないとずるずるといつまでも出せないと思ったので、強行的に発行しました、ごめんなさい。

そんな訳でいろいろ問題のある本で申し訳ありませんでしたが、最後までお付き合いありがとうございました。

また次の本でお会いできたら嬉しいです。

発行日／2011年12月31日

発行元／ライト・ガーデン（ひかべ さくほ）

印刷所／有限会社あかつき印刷

（表紙／関西美術印刷株式会社）

連絡先Eメールアドレス／light@marie.saiin.net

WEBサイト／<http://marie.saiin.net/~light/>

無断での転載・複製・複写・WEBへのアップロードなどを禁じます。

[ライト・ガーデン]は

創作とその他色々の男性向けで活動しているサークルです。

イベント参加は夏冬のコミックマーケット中心。

サークル自体での通信販売などは一切行っていませんが、

一部の本に関しては「とらのあな」「メロンブックス」等に

委託していることもあります。



ライト・ガーデン



ライト・ガーデン